

# 国分寺市の年表

時代	西暦・和暦 (年号)		主な出来事
旧石器	35000 年前頃		●この頃、市内に人が住み始める。〈市内最古の遺跡、多摩蘭坂遺跡で「立川ローム層第Ⅹ層出土石斧群 6点〔市〕」が出土〉
	18000 年～ 12000 年前頃		●市内各所でナイフ形石器等が作られる。〈光町遺跡、多摩蘭坂遺跡、熊ノ郷遺跡「国分寺所蔵資料 (旧国分寺市文化財保存館) 〔市〕」、花沢東遺跡、武蔵国分寺跡、殿ヶ谷戸・殿ヶ谷戸北遺跡〉
縄文	草創期	12000 年前頃	●市内で最初に縄文土器、有舌尖頭器が使われる。〈恋ヶ窪東遺跡では、旧石器時代終わりから縄文時代初めにかけて生活が続く〉
	早期	10000 年前頃	●市内で最初に竪穴住居で人々が住み始める。〈多喜窪遺跡・恋ヶ窪南遺跡など〉
	前期	6000 年前頃	●縄文海進に伴って人々が移動し、市内の住居が少なくなる。〈花沢東遺跡で竪穴住居跡 1カ所、多喜窪遺跡・恋ヶ窪遺跡などで土器片が少量出土〉
	中期	5000 年前頃	●市内に大集落がつけられる。〈恋ヶ窪遺跡「硬玉製大珠〔市〕」・多喜窪遺跡「武蔵多喜窪遺跡第一号住居跡出土品一括〔国〕」
	後期	4000 年前頃	●この時期の後半から後期にかけて市内で敷石住居跡が流行する。〈恋ヶ窪東遺跡など〉
弥生	紀元前 300 年頃		●湿潤な気候となり、食料採取が容易な場所に人々が移動する。〈恋ヶ窪東遺跡、八幡前遺跡、羽根沢遺跡など〉
	300 年頃		●市内に人がほとんどいなくなる。〈土器が少量出土するのみで、住居跡はない〉
古墳	紀元前 300 年頃		●市内に住む人がいなくなる。〈花沢西遺跡の遺物包含層から土器片のみ〉
飛鳥	685	天武 14 年	●市内に住む人がいない時期が続く。〈武蔵国分寺尼寺跡付近から土師器の甕片のみ〉
	7 世紀末～8 世紀初頭		●この頃から奈良時代にかけて、多喜窪遺跡・多摩蘭坂遺跡などの国分寺崖線の傾斜地に横穴墓が造られる。
奈良	710	和銅 3 年	●この頃、五畿七道がほぼ成立する。武蔵国は東山道に属し本道からの往還路、東山道武蔵路 (「東山道武蔵路跡〔国〕」が整備される。
	741	天平 13 年	●白鳳時代後期に関東で「銅造像観世音菩薩立像〔都〕」が製作される。
	757	天平宝字元年	●平城京に遷都。
	771	宝亀 2 年	●聖武天皇が諸国に国分寺 (僧寺・尼寺) の建立を命じる。
平安	794	延暦 13 年	●この頃、武蔵国分寺 (「武蔵国分寺跡〔国〕」) の主要な建物が完成する。
	835	承和 2 年	●武蔵国が東山道から東海道へ所属替え。
	845	12 年	●平安京に遷都。
	847	14 年	●武蔵国分寺の七重塔が落雷により焼失。
	848	嘉祥元年	●男衾郡の前大領壬生吉志福正が七重塔再建を願い出て許可される。
	10 世紀中頃		●武蔵国分寺中院の僧最安が一切経を書写する (奈良法隆寺所蔵『大菩薩藏経』巻 13 奥書)。
鎌倉	平安時代末～鎌倉時代初		●玉造小町が真姿の池 (「真姿の池湧水群〔都〕」) で難病を平癒したと伝えられる (『医王山縁起』)。
	1192	建久 3 年	●この頃、正倉院所蔵の佐波理蓋第二号と共通した文様の「唐草四獣文銅蓋〔都〕」が製作される。
	1288	正応元年	●この頃、現在の愛知県瀬戸市付近で生産されたと推定される「武蔵国分寺跡出土の緑釉花文皿〔都〕」が作られる。
建武新政	10 世紀中頃		●この頃、武蔵国分寺の伽藍地区区画溝の北辺付近に住居 (「土師竪穴住居跡〔市〕」) が建てられる。
	1333	元弘 3 年	●この頃、「木造薬師如来坐像〔国〕」が製作される。
室町	1192		●源頼朝征夷大将軍に任ぜられる。
	1288		●現存する市内最古の板碑が造られ、それ以降、室町時代にかけて伝祥応寺跡や恋ヶ窪廃寺跡などで板碑が造立される。
	1333		●この頃、鎌倉と北関東を結ぶ道が開かれ、鎌倉街道「上道」(「伝鎌倉街道〔市〕」) が市内を通過する。
	1335		●分倍河原の合戦の戦乱に巻き込まれ、武蔵国分寺が焼失する (『医王山縁起』)。
安土桃山	1335		●鎌倉幕府滅びる。
	1336		●新田義貞の奇進により薬師堂が建立され、武蔵国分寺が再興される (『医王山縁起』)。
	1400		●足利尊氏幕府を開く。
	1426		●国分寺薬師如来の脇侍日光・月光菩薩の造立勅進文を深大寺の僧長弁が起草する (『長弁私案抄』)。
戦国	1400		●国分寺薬師如来の宝前に妙法蓮華経 6 部が施入される (『長弁私案抄』)。
	1426		●守護院道興准后が関東を旅行して恋ヶ窪に立寄り、紀行文『廻国雑記』に和歌一首を残す。
	1486		●国分寺伝来の「木造書見台 墨書名「弘治二年」〔市〕」が作られ、「弘治二年八月十六日 武蔵国最勝院本堂用」と墨書される。
	1556		●室町幕府滅びる。
江戸	1573		●徳川家康が関東に入国。
	1573		●徳川家康幕府を開く。
	1590		●三代将軍徳川家光が国分寺薬師堂領を安堵する「徳川将軍家寺領安堵朱印状〔市〕」を発給する (十四代家茂まで 9 通)。
	1603		●この頃作成の『武蔵田園簿』に国分寺村、恋ヶ窪村が記載される。
	1648		●この頃、国分寺本堂裏の「こうやまき〔市〕」が育ち始める (現在樹齢 300 年を超える)。
江戸	1650		●羽村から江戸まで玉川上水が開通する。
	1654		●玉川上水から国分寺村・恋ヶ窪村・貫井村の 3 か所で分水を引く。
	1657		●府中領総検地。〈国分寺村・恋ヶ窪村に後世の写しであるが検地帳が残っている〉
	1678		●この年から昭和期まで書かれた「本多良雄古文書〔市〕」が残っている。
	1718		●宝暦年間 (1751～64) に建造されたと伝わる「国分寺仁王門〔市〕」(西元町一丁目) 内の仁王像が作られる。
	1719		●この年から昭和期まで書かれた「戸倉義助家古文書〔市〕」が残っている。
	1722		●幕府が新田開発奨励の高札を日本橋に立てる。
	1726		●祥応寺が国分寺村から本多に引寺される。〈この際に「このてかしわ〔市〕」も移植されたと伝えられている〉
	1730		●この年から寛保元年 (1741) まで「武蔵野新田成立期の御用留 5 冊」が作られる。
	1736		●武蔵野新田検地実施。市域内の新田が検地を受ける。
	1739		●「元文元年野中新田検地帳〔市〕」が作られる。
1748		●押立村 (現府中市) 名主平右衛門が南北武蔵野新田世話役に任命される。	
1748		●市域が尾張徳川家の鷹場に組入れられる。	

時代	西暦・和暦 (年号)	主な出来事 [国]:国指定文化財/[都]:東京都指定文化財/[市]:国分寺市指定文化財
江戸	1756 宝暦6年	●「国分寺薬師堂 [市]」(西元町一丁目)が現在の場所に建て替えられる。 ●国分寺薬師堂の境内に「武蔵国府中国分寺碑記」が建立される。
	1767 明和4年	●武蔵野新田養料金制度の記録「南北武蔵野新田養料金始末書 [市]」が作られる。
	1795 寛政7年	●中藤新田観音寺(西町二丁目)に、「川崎平右衛門及び観音寺中興開山供養塔 [市]」が建立される。
	1799 11年	●現妙法寺(北町三丁目)境内に「川崎・伊奈両代官謝恩塔 [市]」が建立される。この塔の内部に「武蔵新田養料金一件始末書 [市]」が納められる。
	1809 文化6年	●幕臣で文人の大田南畝(蜀山人)が武蔵国分寺跡、国分寺薬師堂、恋ヶ窪村を訪れる(『調布日記』)。
	1819 文政2年	●中藤新田観音寺に木食観正碑が建立される。
	1820 3年	●〈「疫病神の詫び証文 3点 [市]」にこの年の年号が記されている〉
	1836 天保7年	●この年から明治3年(1870)まで「村巨細日記 [市]」が作られる。
	1843 14年	●水野越前守忠邦ら幕府の要人が、府中から国分寺を経て小金井桜まで遠馬に来る。
	1848 弘化5年	●国分寺村名主屋敷(現おたかの道湧水園)に長屋門(「日本多家住宅長屋門 [市]」)が建てられる。
1867 慶応3年	●尾張徳川家鷹場が廃止される。 大政奉還。王政復古。	
明治	1868 明治元年	●恋ヶ窪村出身の俳句の宗匠白雪庵可尊が帰郷する。 ●日本橋浜町(中央区内)の品川県庁で御門訴事件が起き、首謀者とされた野中新田名主など8名が亡くなる。
	1871 4年	●玉川上水に通航が許可され、各村の分水口が統廃合される。
	1873 6年	●前年発布の学制により国分寺村に最勝学舎が開校する。
	1874 7年	●中藤新田に断機学舎が開校する。 ●野中新田六左衛門組に里仁学舎が開校する。
	1889 22年	●国分寺村外9村が合併して国分寺村ができる。 ●甲武鉄道(現JR中央線)が新宿・立川間で開通し、同時に国分寺駅が開業する。
	1894 27年	●鳥居龍蔵ら日本人考古学者による最初の発掘調査が国分寺駅東側で行われ、国分寺村石器時代遺跡(本町遺跡=本町二丁目)と命名される。 ●川越鉄道(現西武国分寺線)が国分寺・東村山間で開通し、翌年川越まで開通する。
	1895 28年	●国分寺・府中間で乗合馬車が開業する。 ●米津寺(東久留米市内)の18世紀中頃建造の楼門(「国分寺楼門 [市]」)が国分寺へ移築される。
	1897 30年	古社寺保存法制定。
	1900 33年	●旧国分寺村名主屋敷(現おたかの道湧水園)に倉(「日本多家住宅倉 [市]」)が建てられる(昭和8年に改修)。
	1908 41年	●国分寺郵便局が開局する。
	1910 43年	●国分寺・下河原(府中市内)間に東京砂利鉄道(のち下河原線、現JR武蔵野線の一部)が開通する。
	1911 44年	●国分寺村役場が内藤新田(日吉町一丁目)から恋ヶ窪(現JA東京むさしの国分寺支店)へ移転する。
	1913 大正2年	●京王電気鉄道(現京王帝都鉄道)が国分寺・調布間に乗合自動車を開業するが、翌年廃止になる。
	1914 3年	●国分寺村に京王電気鉄道から電気が供給される。
	大正	1915 4年
1918 7年		●今村銀行頭取の今村繁三が田畑農園を買収し、別荘を作る。
1920 9年		●第1回国勢調査、人口4,618人、世帯数801。
1921 10年		●国分寺村に電話が開通する。
1926 15年		●国立駅が開業する。
1928 昭和3年		●多摩湖鉄道(現西武多摩湖線)が国分寺・萩山間で開通する。同時に東国分寺駅(現恋ヶ窪二丁目、昭和20年営業中止、同29年廃止)が開業する。 ●国分寺・府中間に乗合自動車が開業する。
昭和	1929 4年	国宝保存法制定。 ●三菱合資会社の岩崎彦彌太が江口家別荘を買収する。
	1933 8年	●中央工業株式会社南部銃製造所(のちに新中央工業)が国分寺村へ移転してくる。
	1934 9年	●下河原線が東京競馬場へ引込線を設け、競馬開催時に旅客運送始める。
	1940 15年	●国分寺村が町制施行し、国分寺町が誕生する。
	1942 17年	●今村別荘が日立中央研究所になる。
	1945 20年	●五日市街道沿いにアメリカ軍B29が墜落。恋ヶ窪に爆弾が落とされる。本多新田と内藤新田に焼夷弾が落とされる。終戦。
	1946 21年	●大倉経済専門学校(現東京経済大学)が赤坂葵町(現在の港区虎ノ門)から中央工業(株)国分寺製造所の南半分に移転してくる。
	1950 25年	文化財保護法制定。 ●国分寺の前住職が万葉集にちなむ植物の収集を開始し、のちに「万葉植物園 [市]」を開園する。
	1955 30年	●糸川英夫率いる東大生産技術研究所が新中央工業敷地内(現早稲田実業学校内)で国産小型ロケットの水平発射実験を成功させる。 ●西武国分寺線の恋ヶ窪駅が開業する。
	1956 31年	●国分寺駅南口が開設される。
	1959 34年	●国立駅北口が開設される。
	1960 35年	●町文化財保護条例が設置される。町営水道の供給が開始される。
	1963 38年	●町役場が現住所(戸倉一丁目)に新築移転される。
	1964 39年	●地番整理・町名変更を実施する。 ●国分寺町が市制施行し国分寺市が誕生する。
	1969 44年	●都立国分寺高等学校が開校する。
1973 48年	●武蔵野線が府中本町・新松戸間で開通し、下河原線は廃止される。西国分寺駅が開業する。	
1974 49年	●東京都が岩崎家から別荘を買収し、昭和54年に都立「殿ヶ谷戸庭園 [国]」として開園する。	
1985 60年	●「お鷹の道・真姿の池湧水群」が環境庁名水百選に選ばれる。	
平成	1989 平成元年	●国分寺駅ビルが開業する。 ●新潟県佐渡郡真野町(現佐渡市)と姉妹都市となる。
	1990 2年	●国分寺市の人口が10万人を越す。
	1993 5年	●オーストラリアのマリオン市(南オーストラリア州)と国際姉妹都市になる。
	2000 12年	●旧国鉄・鉄道学園跡地に都立武蔵国分寺公園が開園する。
	2001 13年	●早稲田実業学校が国分寺市本町に移転してくる。
	2003 15年	●コミュニティバス「ぶんバス」の運行を開始する。
	2011 23年	東日本大震災。
2015 27年	●小惑星に「コクブンジ (Kokubunji)」の名称がつけられ、国際天文学連合によって公式決定される。	